

日本海学の再定義に関する新旧対照表

現行	改正案
「日本海学」は、環日本海地域全体を、日本海を共有する一つのまとまりのある圏域としてとらえ、日本海に視座をおいて、過去、現在、未来にわたる環日本海地域の人間と自然のかかわり、地域間の人間と人間とのかかわりを、総合学として学際的に研究しようとするものである。	日本海学は、日本海とその周辺および関連地域全体を、生命の源である海を共有する一つのまとまりとしてとらえ、海との関わりを軸にその自然・文化・歴史・経済を総合的に研究し、新たな領域を創成するとともに、地域の自立・交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する取り組みです。

(変更趣旨)

現行	改正案	趣旨
「日本海学」は、	日本海学は、	10年間の活動により日本海学という名称が普及してきたことからかっこをはずす。
環日本海地域全体を、	日本海とその周辺および関連地域全体を、	日本海自体が含まれることを明示し、東アジア全体を視野に入れた、より広い範囲を定義する。
日本海を共有する一つのまとまりのある圏域としてとらえ、	生命の源である海を共有する一つのまとまりとしてとらえ、	日本海を含む海が果たす役割を分かりやすく表現するとともに、日本海学が海も陸地も全体として研究対象とすることを示す。
日本海に視座をおいて、過去、現在、未来にわたる環日本海地域の人間と自然のかかわり、地域間の人間と人間とのかかわりを、	海との関わりを軸にその自然・文化・歴史・経済を	日本海学の主たる研究分野を具体的に表記することによって、現行の表現をより分かりやすいものにする。
総合学として学際的に研究しようとするものである。	総合的に研究し、新たな領域を創成するとともに、地域の自立・交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する取り組みです。	既存の研究分野にとどまらず新しいものを引き出そうという日本海学の可能性を示唆するとともに、学問研究だけでなく、いのちを大切に将来を見据えた取り組みであることを身近な言葉で表現する。また、現行の日本海学の視点の「循環」「共生」について、「地域の自立・交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する」と言い換えた上で定義に盛り込む。

現行の「である」調から「です」調に変更する。